



令和6年10月31日
学校法人志賀学園
久之浜こども園

カボチャのランタンやコウモリのリバンベル、魔女や吸血鬼の仮装など、あちらこちらでハロウィンの雰囲気を楽しめる時期になりました。

園内も作品展を前に、お部屋やホールに子ども達が作った『魔女の館』『ランタン』『コウモリ』『オバケ』『魔女のリース』『黒猫』などの作品が所狭しと飾られています。11月1日の作品展にはこの作品がホールに飾られる予定です。

私の子どもの頃はハロウィンという行事になじみがなく、ここ十数年の間に、ものすごい勢いで話題になっているものの、そもそもハロウィンの起源や由来とは、どんなものなのかなと思い調べてみました。

ハロウィンの起源は2000年以上昔の古代ケルト人（アイルランドやスコットランドをはじめヨーロッパの地域に居住していた人々）まで遡ります。彼らにとっては、夏の終わりと冬の到来を告げるお祭り「サウィン祭」を、1年の終わりである10月31日にと収穫物を集めて盛大に行っていました。

その後発祥の地とされるアイルランドから多くの国に伝わっていますが、其々の国の文化と融合して独自の発展を遂げてきました。近年日本で親しまれているハロウィンは、家をホラー風に装飾してホームパーティーをしたり仮装をしたりして楽しんでいます。これはアメリカから伝わってきた楽しみ方だそうです。古代ケルトでは、日本のお盆と同様に、10月31日は死後の世界との扉が開き、ご先祖様の霊が家族に会いに現世に来て、子どもをさらったり人の魂を取ったりするとも言われていました。そこで人々は仮面をかぶったり化粧をしたり魔除けの焚火を焚いたりして、悪さをする悪霊や精霊を追い払っていたとされています。いつも悪さばかりしていたジャックは生前の悪行がたたき、死後もカブのランタン（アメリカではカボチャのランタン）をもって、現世をさまよい続けているというのが、伝承のあらすじです。ハロウィンでは魔女やおばけに仮装した子ども達が、日没後に近所の家を訪問して「トリック・オア・トリート」と唱える風景も有名です。日本語に訳すと「お菓子をくれないといたずらするぞ！」という意味になり、大人は「ハッピーハロウィン」と答えて、お菓子をあげるのが一般的だそうです。

諸説ありますが、中世ヨーロッパで農民がお祭り用の食材をもらい歩いた様子が由来とされています。

「なるほど！日本でいうとお正月とお盆とお月見泥棒が一緒になったような行事なのですね！」と自己納得しました。

ハロウィンの意味が分かったところで、園内に目を向けてみますと、子ども達は実によくハロウィンに関する作品を楽しそうに作っております。5歳児は仲間と作った協同作品『まじょの館』の中で、ままごとや魔女の学校ごっこをしたりして遊ぶ姿が見られます。その他にも、4歳児は粘土でピザを作り始めたのがきっかけとなりピザ屋さんごっこをしばらく楽しんだ後、ドングリのピザを作りました。また3歳児は「ちいさなくも」という絵本からイメージを膨らませ、お外で青空を見上げながら白い雲を描きました。0・1・2歳児も月々無理なく製作してきた作品を展示します。どれも普段の生活や遊びから繋がっている作品ですので、展示場の説明も一緒に読みながらお楽しみください。